

来年4月に開催される大阪・関西万博。開催場所や予算膨張に関する残念な報道は置くとして、地元民としては当然注視してい



ニッポン経・子一様

(790)

大阪・関西万博に想うつ

バッジを胸に付け、月の石を見るために2時間以上も並んだ事を鮮明に記憶しています。90年国際花と緑の博覧会では地元金融機関職員として

す。いざ開催すれば状況は変わる！ かもしれません、70年や90年程の高揚感は今のところは感じません。

催されたと言えるかも知れません。

それに比べ現在は大きく状況が異なります。低迷する経済の起爆剤！ という考え方は分からないではありませんが、過去の成功体験とかけ離れているようにも思えます。

て本業そっちのけ、機運醸成の関連イベント支援に駆け回ったものです。

翻って今回の大阪・関西万博ですが、どうも勝手が以前と違いま

ル経済のピーク。今とは比べものにならない高揚感に包まれた時代でした。つまりはそもそも成功の土壌があるタイミングに、万博のようないイベントが開

ます。

思えば

1970年の大阪万博は懐かしい思い出です。小学生だった私は迷子バッジ(迷子対策として氏名を記載した

大阪人！「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマに恥じず、無事にレガシーとなる事を願うばかりです。

も勝手が以前と違いま

ようないイベントが開

す。

(大国主)